

JA^{ジェイエイ}ってなに？

JA（ジェイエイ）とは農業協同組合（のうぎょうきょうどうくみあい）のことです。

「協同」とは、みんなの願いをかなえたり、問題を解決（かいけつ）するために、「力を合わせる」ことです。協の字は力を3つたすと書きます。ひとりではできないことも、3人集まって力を合わせればいろいろな願いをかなえることができます。

協同組合とは、みんなの力を合わせて、みんなの願いをかなえるための集まりです。



協同組合ってなに？（1）

世界で初めての協同組合 ～19世紀のヨーロッパで誕生(たんじょう)

協同組合は、19世紀にイギリスなどヨーロッパの国々で生まれました。イギリスでは産業革命(さんぎょうかくめい)が起こり、石炭を使って機械を動かす織物(おりもの)などの工場がたくさんできました。

イギリスのロッチデールという町の工場で安い賃金(ちんぎん)で働く人々は、仕事はきつく、賃金(ちんぎん)が安く、とても貧(まず)しいみじめな暮らしをしていました。お金がないので暮らしに必要なものを「つけ」で買わざるをえませんでした。パンや小麦(こむぎ)に混(ま)ぜ物をされたり、量をごまかされたり、暮らしに必要な(ひつよう)なものも十分に手に入りません。栄養(えいよう)がとれないので、半数以上の子どもが5才になる前になくなってしまったそうです。

そこで、ロッチデールの28人の織物工場(おりもの)で働く人々は、「もっとよい暮らしがしたい」という願いをかなえるために、みんなで週にペンスのお金を出しあって1ポンドのお金を貯(た)め、自分たちで使う自分たちのお店を1844年につくりました。暮らしに必要なモノを仕入れてお店で買えるようにしたのです。これが世界で初めての「協同組合」です。その後「協同組合」の考え方はヨーロッパから世界に広がっていきました。



協同組合ってなに？ (2)

日本の協同組合の始まり ～明治時代の産業組合

日本では、明治時代になると農業や工業など農産物(のうさんぶつ)や製品(せいひん)をつくり出す産業がさかんになり、輸出(ゆしゅつ)も始まりました。しかし、お金が大都市や大きな企業に集まり、農家や、地域(ちいき)の小さな会社に勤(つと)めている人々は思うようにお金を借(か)りたり、モノを買うことができず、くらしはとても苦しいものでした。

そこで、農業をはじめ、いろいろな職業(しよくぎょう)にたずさわる人々はドイツの「協同組合」をお手本に「産業組合」をつくり事業活動(じぎょうかつどう)をするようになりました。集落ごとの農家の助け合いのための集まり「農家組合」も全国各地に数多くつくられました。

※「産業組合」は明治33(1900)年に国の法律(ほうりつ)で定められた、いろいろな産業のための「協同組合」です。

産業組合で行われていたさまざまな事業

- 自分たちのつくった農産物や製品をまとめて出荷する 「販売(はんばい)事業」
- くらしに必要なものをまとめて買う 「購買(こうばい)事業」
- 事故(じこ)や災害(さいがい)に備えてみんなでお金をためておく「共済(きょうさい)事業」
- みんなのお金をためておき、必要なときに使う 「信用(しんよう)事業」
- 農産物などを加工して製品をつくる 「加工(かこう)事業」
- 診療所(しんりょうじょ)や病院を運営(うんえい)する 「厚生(こうせい)事業」

「農業協同組合(のうぎょうきょうどうくみあい)」の始まり ～昭和23年

第二次世界大戦が始まると、食料をたくさん生産するために「産業組合」や全国の「農家組合」は「農業会」という団体にまとめられ、国によって管理されるようになりました。しかし、戦争が終わってしばらくして、昭和23(1948)年に、農家が自由に活動ができる協同組合をつくらうと、全国の農家による農家のための組合、「農業協同組合」がつくられました。これが日本の「農業協同組合」の始まりです。



昭和27(1952)年に「第1回全国農業協同組合大会」が開かれ、全国各地の農業協同組合の代表(だいひょう)など3,000人もの人が集まりました。



協同組合ってなに？ (3)

「協同組合」と「株式会社(かぶしきがいしゃ)」の違い

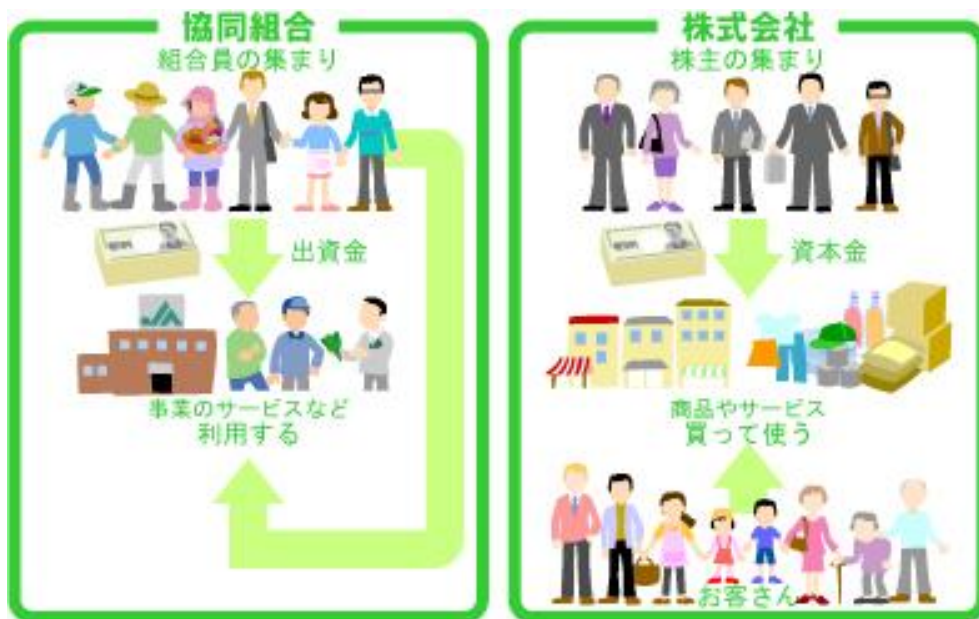
協同組合にはJAのほかに、「生活協同組合(生協)」、「漁業(ぎょぎょう)協同組合」「森林組合」「信用組合」などがあります。協同組合と株式会社とはどう違うのでしょうか？

「協同組合」も「株式会社」も人の集まりですが、協同組合は「組合員」、株式会社は「株主(かぶぬし)」の集まりです。農業協同組合はみんなの力を合わせて「農業という仕事、地域の人々のくらしを守りたい」という願いをかなえることをめざしていますが、株式会社は競争(きょうそう)して「お金をもうけること」が目的です。

「協同組合」は組合員が出し合ったお金(出資金)をもとに、組合員や地域の人々のための事業を運営(うんえい)しています。あまったお金は分けることがありますがおうけとは呼びません。「株式会社」は株主が会社の株を買ったときのお金をもとに運営されます。株の値だんが上がると株主は配当(はいとう)といううけの分け前をもらいます。

また、「協同組合」の事業のサービスの利用者は組合員や地域の人々です。「株式会社」の商品やサービスをお金を出して買うのは「お客さん」です。

これらをまとめてひとことではいって、協同組合は同じ願いをかなえたいと思う「人と人のつながり」、株式会社は「お金のつながり」でできた集まりだということができるでしょう。



JA(ジェイエイ)ってなんのこと?

JAは、農業協同組合(のうぎょうきょうどうくみあい)のニックネーム

JA(ジェイエイ)という名前は、「農業協同組合(のうぎょうきょうどうくみあい)」の英語表記 Japan Agricultural Co-operatives(ジャパン・アグリカルチュラル・コーポラティブズ)のかしら文字をとってつけられたニックネームです。シンボルマークは緑のアルファベットのJとAを組み合わせたデザインで、どっしりとした大地と人と人のきずなのイメージを表したものです。それまでの農業協同組合のマークは稲穂(いなほ)のデザインでしたが、農家だけではなく、みなさんといっしょに地域のくらしづくりをしていこうと、平成4(1992)年に新しく、親しみやすい呼び名とマークを使うことになりました。



～平成3年

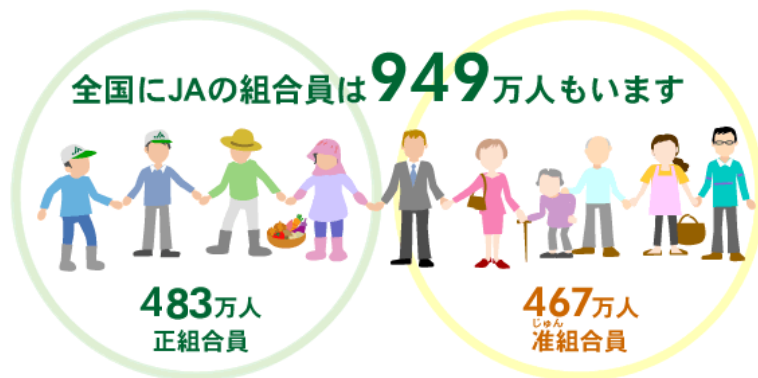


平成4年～

全国のJAの数は715組合。組合員は949万人。

現在(げんざい)全国にあるJAの数は715(平成23年3月1日現在)です。昭和25年には1万3,314ものJAがありましたが、効率化(こうりつか)を図(はか)るため、いくつかのJAをまとめてひとつにする「合併(がっぺい)」を進めているので、数が減(へ)っています。

JAの組合員には正組合員と准(じゅん)組合員があります。正組合員は農家の組合員で、全国に483万人。准組合員は農業以外の仕事をしている組合員で467万人。あわせて949万人の組合員がいます。正組合員と准組合の割(わ)り合いは大体半分ずつです。日本人の13人にひとりが組合員です。



※平成20事業年度末現在



農家でなくてもJA(ジェイエイ)は使えるの？

農家でなくてもJAの組合員になれる

組合員には「正組合員」と「准(じゅん)組合員」の2種類があります。「正組合員」も「准組合員」もJAのいろいろな事業のサービスや施設を使うことができますが、「正組合員」は農業を仕事にしている人(団体)、「准組合員」は地域(ちいき)に住み農業以外のお仕事をしている人が、手続きをして出資(しゅっし)金を出せば、なることができます。手続きはとてもかんたんです。

※出資金: 組合の事業を行うために組合員が出すお金のこと。

組合員になるといろいろなサービスが使えます



JA(ジェイエイ)は、なにをめざしているの？

戦後の農村とともに歩んだ農業協同組合

農業協同組合は昭和23(1948)年に、「農家による農家のための集まり」として誕生(たんじょう)しました。当時は食料難(しょくりょうなん)の時代で、日本人が食べるお米などの農産物をたくさんつくるのが農業協同組合の使命(しめい)でした。当時、日本人の3人に1人は農家でしたが、農村の人々はとてもまずしく、塩分をとりすぎるなど健康管理(けんこうかんり)もうまくいっていませんでした。農業協同組合は、農村で健康診断(けんこうしんだん)をしたり、女性部(農家のお母さんたち)が栄養(えいよう)のとりかたを工夫(くふう)するなど、農畜産物(のうちくさんぶつ)をつくるだけでなく、農村の人々の暮らしをよりよくするために努力を続けました。

みんなの力を合わせて住みやすい地域(ちいき)づくり

その後、日本は高度経済成長(こうどけいざいせいちょう)の時代をむかえ、農家や農村の暮らしはどんどん豊かになっていきました。農村には農家だけでなく、商店や会社や工場に勤(つと)める人などいろいろな職業(しよくぎょう)の方が増えました。

そして今、農業協同組合(JA)は農家だけではなく、地域(ちいき)のみなさんと深く関わり、地域の暮らしをよくしていこうとがんばっています。たとえば、地域に病院をつくったり、お年よりの暮らしをサポートするサービスをしたり、地域の小中学生のみなさんに農作業を体験(たいけん)していただく学童農園のお世話をしたり、地域の食文化を伝える料理教室を開いたり、いろいろなとくみをしています。

JAが大切にしていること

JAは「農業協同組合」ですから、JAがいちばん大切にしているのは「農業」です。農業の生産力を高める、農家の収入(しゅうにゅう)を増やす、地域の農業をより元気にするのは、もちろんJAの大切な役割(やくわり)です。そしてJAは、この「農業」を広い意味での「農」、たとえば田んぼや畑などの農地、日ごろ私たちが口にする食べ物、農村の暮らしや、環境(かんきょう)などもふくめた広い意味(いみ)でも考えています。

こうしたJAが大切にしていることを、組合員のみなで共有(きょうゆう)して、心をひとつにして願いをかなえるために、JAでは、「JA綱領(こうりょう)」という指針(ししん)をつくりました。

そこでは、「かけがえのない農を守り、はぐくみ、農業や食の大切さを一人でも多くの人にしてもらおうこと。このことを通して、住みよい地域社会をつくろう」ということを定めています。



JA(ジェイエイ)ってなにをしているの? (1)

JAは農家・農業をサポートしたり、地域(ちいき)のみなさんのくらしを支える事業をしています。

JAは、ロッヂデールの協同組合や明治時代の産業組合と同じ「協同組合」の考え方を引きつぎ、事業・活動をしています。JAの事業にはいろいろなものがありますが、どの事業もスタート時と同じ、「みんなで力を合わせて、みんなの願いをかなえる」ためのとくみです。ここでは、数ある事業のなかから、主な事業をご紹介します(しょうかい)します。

●指導事業

・・・農家にアドバイスする仕事です。

アドバイザーが農家のもとに出向き、おいしくて安全な農産物のつくりかたや家畜(かちく)の育て方、農業の経営(けいえい)やお金の使いかたについて相談(そうだん)にのっています。



●販売(はんばい)事業

・・・農畜産物をお金にかえる仕事です。

農家が生産した農畜産物(のうちくさんぶつ)を集めて、共同で市場(いちば)に出したり、ファーマーズマーケット(直売所)で販売しています。農畜産物をきちんとした値だんで販売(はんばい)することは農家の経営(けいえい)を支えるためにとても大切なことです。



●購買(こうばい)事業

・・・質のよいモノをまとめて買って分ける仕事です。

農業に必要なモノと、くらしに必要なモノの共同購入(きょうどうこうにゅう)のしくみです。安全で品質(ひんしつ)のよい肥料(ひりょう)や農薬、家畜(かちく)のえさ、農業機械、くらしに必要なモノを計画的にまとめて買うことで、組合員に安く売ることができています。



●信用事業

・・・銀行のような仕事です。

組合員からお金を預(あず)かり、それぞれの組合員が必要なときにお金を引き出したり、借(か)りることができる金融機関(きんゆうきかん)を運営(うんえい)しています。



JA(ジェイエ)ってなにをしているの? (2)

● 共済(きょうさい) 事業

・・・保険(ほけん)会社のような仕事です。

組合員のみinnでお金をたくわえ、病気や事故(じこ)、災害に合った人がお金を使えるようにしておく仕事です。交通事故(こうつうじこ)を減(へ)らすための安全教室も開いています。



● 加工事業

・・・農畜産物を食品に加工する仕事です。

農家がつくった地域(ちいき)の特色ある農畜産物を地域の加工の技(わざ)で加工し、食品として販売(はんばい)します。農家の収入アップ、食の文化づくりのためにも重要な事業です。



● 厚生(こうせい) 事業

・・・地域のみなさんの健康を守る仕事です。

組合員や地域のみなさんの健康(けんこう)を守るための仕事です。健康診断(けんこうしんだん)など病気の予防にも力を入れています。



● 高齢者福祉(こうれいしゃふくし) 事業

・・・お年よりのくらしをサポートする仕事です。

お年よりの割合(わりあい)が高い農村ではお年よりのくらしをお手伝いする仕事がとても重要です。JAでは、元気なお年よりにはスポーツや楽しいもおしなど、より元気になっていただくための活動をしています。介護(かいご)が必要なお年よりには、デイサービスセンターや訪問入浴(ほうもんにゆうよく)や訪問介護(ほうもんかいご)などのサービスを提供(ていきょう)しています。お年よりのお世話をするホームヘルパーの講座(こうざ)も開いています。



※デイサービス: お世話が必要なお年よりに施設(しせつ)に来ていただき、日帰り方式で提供する入浴(にゆうよく)、食事、レクリエーション、リハビリテーションなどのサービスのこと。

※訪問入浴(ほうもんにゆうよく): お年よりのお宅にうかがい、移動(いどう)できる浴槽(よくそう)などを使ってお風呂に入らせていただくサービスのこと。

そのほかの事業

● 冠婚葬祭(かんこんそうさい) 事業・・・結婚(けっこん)式やお葬式(そうしき)をあつかう仕事です。

● 観光(かんこう) 事業・・・グリーンツーリズム、地産地消(ちさんちしょう)ツアーをはじめいろいろな国内・国外の旅行をあつかう仕事です。



地域(ちいき)のとりくみの紹介(しょうかい) (1)

安全・安心な農畜産物(のうちくさんぶつ)を提供(ていきょう)するJA(ジェイエイ)、農や食の大切さを伝えるJAのとりくみの一部をご紹介します。

ファーマーズマーケット

全国各地のJAでは地元の新鮮な農産物を提供(ていきょう)するファーマーズマーケット(直売所)を運営(うんえい)しています。地元のとりにたての農産物や女性部のお母さんたちがつくったおそうざいやおかしがいっぱいです。



食農教育

全国各地のJAでは、農家の苦勞(くろう)と喜びにふれ、毎日の「食」と「農」のつながりを実感してもらう活動を行っています。栽培(さいばい)のしかたなどを学習する農業体験(たいけん)の場を提供(ていきょう)しています。



料理教室

こども料理教室、親子料理教室、女性大学の料理教室、男性向け料理教室など、地元の食材を生かしたいろいろな料理教室が各地で開かれています。女性部のお母さんなどによって郷土(きょうど)料理が若い人に伝えられています。



市民農園・体験(たいけん)農園・農業塾(じゅく)

全国各地のJAでは、野菜や花を栽培したり、農業体験ができる市民農園を提供(ていきょう)しています。栽培のしかたを学ぶ講座(こうざ)を開いたり、これから農業を始めたい人のサポートを行っています。



地域(ちいき)のとりくみの紹介(しょうかい) (2)

地域(ちいき)のみなさんのくらしを支えるJA(ジェイエ)の活動の一部をご紹介します。

健康診断(けんこうしんだん)

全国各地のJAの厚生連(こうせいれん)の病院では、地域(ちいき)のみなさんの健康(けんこう)を守るとりくみをしています。一般(いっぱん)市民(しみん)のみなさん(たいしょう)を対象(たいしょう)に定期健診(ていきけんしん)を行っています。



ミニデイサービス

お年よりにいきいきと健康(けんこう)にくらしていただけるよう、JAの施設(しせつ)で楽しく歌(うた)を歌(うた)ったり、食(た)べたり、軽(かろ)く体を動(うご)かすリクリエーション(リエーション)を行っています。JAの女性部(にょせいぶ)が活(あ)やくしています。



訪問診療(ほうもんしんりょう)・訪問介護(ほうもんかいご)

お年よりや、市街地(しがいち)から遠(とほ)いところに住(す)んでいて病院(びやういん)や診療所(しんりょうじょ)に通(とほ)うのが大(お)変(へん)な方(かた)の自(み)宅(たく)に医(い)師(し)や看(かん)護(ご)師(し)、ホ-ムヘルパー(ヘルパー)が出(で)向(む)いて治(ち)療(りょう)や介(かい)護(ご)を(か)行(こ)っています。歯(は)科(か)治(ち)療(りょう)を行(こ)ったり、ヘリコプター(ヘリコプター)で出(で)向(む)くところもあ(あ)ります。



地域(ちいき)のとりくみの紹介(しょうかい) (3)

地域のみなさんのくらしを支えるJA(ジェイエイ)の活動の一部をご紹介します。

子育て支援(しえん)

全国各地のJAでは、子育てをしている地域のお母さん、お父さんをサポートするとりくみを進めています。自由に遊んだり本を読める場所を提供(ていきょう)したり、仲間(なかま)づくりのおてつだい、子育ての相談(そうだん)にのっています。



女性大学

全国各地のJAでは、女性が自分にはほりきを持って自立して生きていくための「教養」(きょうよう)を身につけることのできる、お料理や手芸(しゅげい)、文化、環境(かんきょう)、健康(けんこう)、福祉(ふくし)、歴史(れきし)などさまざまなテーマの講座(こうざ)を開いています。



自治体(じちたい)との防災協定(ぼうさいきょうてい)

各地のJAでは、自治体との防災協定(ぼうさいきょうてい)を結ぶとりくみを進めています。JAは災害(さいがい)がおきたとき、田んぼや畑を避難(ひなん)したりや仮設(かせつ)住宅を建てる場所として提供(ていきょう)します。また食料として農産物を提供することにしています。



どうしてJA(ジェイエイ)はいろいろなとりくみをしているの?

組合員の「暮らし全体」を支援(しえん)するためのJA(ジェイエイ)の事業

JA(ジェイエイ)は、指導(しどう)事業、共済(きょうさい)事業、信用(しんよう)事業、厚生(こうせい)事業など、たくさんの事業をしています。どうしてでしょうか。

JAは「地域(ちいき)の農業や地域の人々の暮らしを守る」ことを目的にした、「農家や地域の人々」の集まりです。つまり、地域に住む一人ひとりの暮らしを支えるためにJAは事業を運営(うんえい)し、さまざまにとりくみをしています。

たとえば、ある農家の暮らしをみてみましょう。農業をするためには農産物の種や肥料(ひりょう)や農薬、農業機械(のうぎょうきかい)を買うための資金(しきん)がいります。暮らしに必要なモノを買ったり、いろいろな食べものを買う日々のお金も必要ですし、子どもが学校に行く教育費(きょういくひ)も貯(た)めておかななくてはなりません。農作業中の事故(じこ)や、地震(じしん)・火事などの自然災害(しぜんさいがい)、交通事故(こうつうじこ)にあうこともありますから、それに備(そな)えて保険(ほけん)に入ることも必要です。また、農産物の栽培(さいばい)のしかた、家畜(かちく)の育てかた、家計簿(ほ)のつけかた、くらしかたのアドバイスも必要です。どれひとつ欠けても農家はしあわせにくらしていくことはできません。

このような組合員の「暮らし全体」を支えるために、JAではいろいろな事業やとりくみをしているのです。

JAグループ組織図(そしきず)

